

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	明野町立鳥羽小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1		6	11
児童数	22	28	20	24	19	31		144	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力を身に付ける指導の在り方 - 算数科における個に応じた指導の工夫改善を通して -</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>・ 1～6年生・算数 系統的に積み重なっていく教科であり、児童の理解の状況に差が出やすい教科であることや児童の実態調査の結果から</p>
---

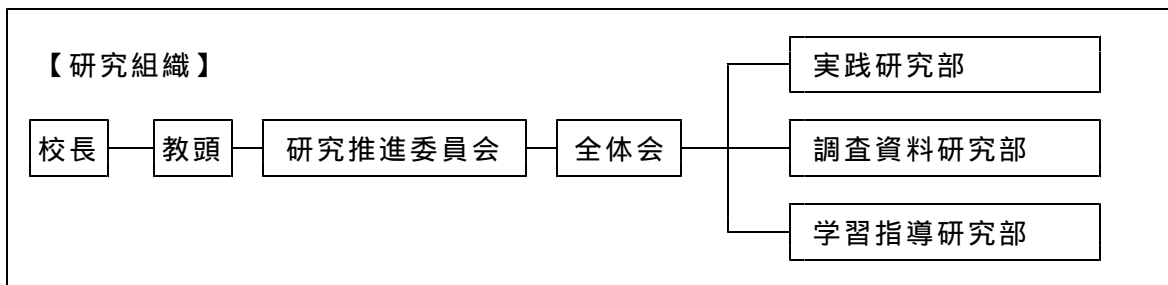
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成を目指して</p> <p>研究の見通し (仮説) 個に応じた指導を工夫改善し、学ぶ楽しさや充実感を味わわせることで「確かな学力を持った児童」を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導のための教材開発 基礎・基本の明確化 発展的な学習のための教材開発 補充的な学習のための教材開発 (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 一人一人の考えを生かしたきめ細かな学習の展開 学習形態の工夫 幼・小・中の連携による指導・支援体制づくり (3) 個に応じた指導のための評価の工夫 評価規準の見直し 指導と評価の一体化 自己評価力の育成</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成を目指して</p> <p>研究の見通し (仮説) 個に応じた指導を工夫改善し、学ぶ楽しさや充実感を味わわせることで「確かな学力を持った児童」を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	--

年 度	(1) 個に応じた指導のための教材開発 基礎・基本の明確化 発展的な学習のための教材開発 補充的な学習のための教材開発 (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 一人一人の考えを生かしたきめ細かな学習の展開 学習形態の工夫 幼・小・中の連携による指導・支援体制づくり (3) 個に応じた指導のための評価の工夫 評価規準の見直し 指導と評価の一体化 自己評価力の育成
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 児童の変容から

「数と計算」の領域における児童の変容を把握するため「計算チェックテスト」（4～6年生対象）を作成し、学期ごとに実施した結果を比べてみると、どの学年も少しずつではあるが伸びがみられた。

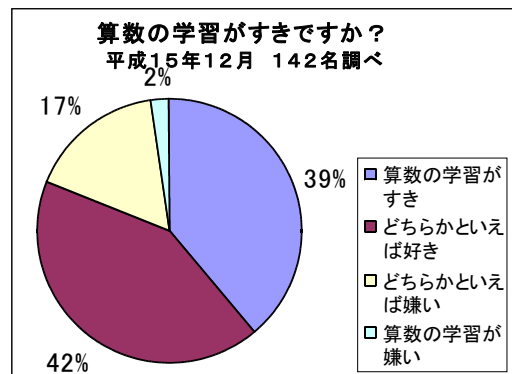
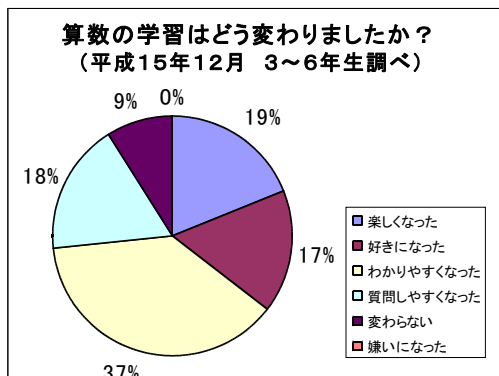
今年度からの取り組みである均等割学習や課題別学習などの少人数学習について児童にアンケートを実施したところ、以下のような結果であった。

ア 3年生では、「授業が楽しくなった」と答える児童が42%と最も多く、ついで「算数がすきになった」が32%となっている。

イ 4・5・6年生では、「わかりやすくなった」と答える児童が最も多く、4年生では57%、5年生が53%、6年生が32%となっている。また、学年が上がるに従い「質問しやすくなった」と答える児童が増えていることも分かった。

高学年になるにつれ個人差が大きくなるので、「教えてもらいたいこと」は増えているはず、「でも友達の前で分からないことを聞くのは恥ずかしい」そんな高学年の児童にとって、少人数学習の場は、安心して学習に臨める場となっているようである。

全体でも、「分かりやすくなった」の38%を筆頭に「楽しくなった」「質問しやすくなった」「好きになった」と続いており、少人数学習の実施によって算数に対する学習意欲が高まってきていることが分かる。



(2) 保護者の意識調査から

保護者に対する意識調査では、習熟度別学習実施前は不安の方が大きく「効果的

である」と考える保護者は全くみられなかった。  
 そこで、学校の取り組みを理解してもらうために「フロンティアだより」を配布するとともに、それぞれの学年でも「どのような観点でグループ分けするのか」「いつ実施するのか」などについて「週のおたより」で知らせたり、コースの名称に配慮したりするなどの手立てを講じた。  
 その結果、2学期の調査では約33%の保護者が「習熟度別学習は効果的であると答えている。これは、児童の「楽しい」「わかりやすい」という声が保護者のもとに届いたことや補充コースで学習している児童も楽しくのびのびと学習しているという様子が見られたことによるのではないかと考えられる。

## 2. 今後の課題

個に応じた教材の開発や学習形態の工夫などについて研究を進めてきたが、「教師が一人一人の児童とどのように関わるか」という視点での取り組みが主であった。今後は「児童相互の練り合い」を考慮したコース設定についても工夫改善し、さらなる学習意欲の高揚と学力の向上を図りたい。  
 「より指導に生かせるような評価」を目指し、その在り方について研究を進めていきたい。  
 幼・小・中の連携については「なだらかな接続」を目指し、職員レベルの相互研修や園児・児童・生徒レベルでの交流などについて研究を進めていきたい。  
 研究成果の普及の在り方についての工夫改善に努めていきたい。

### 学力等把握のための学校としての取組

県「学力診断のためのテスト」  
 ・前年度の学習の到達状況や変容を捉え指導に生かすために年度初めに実施  
 観点別学力診断テスト  
 ・今年度の学習の到達状況を捉え指導に生かすため3学期に実施  
 計算チェックテスト  
 ・「数と計算」の領域における児童の変容を捉えるために毎学期末に実施  
 児童の意識調査  
 ・算数の学習に対する児童の意識の変容を捉えるため2学期に実施

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間発表会  
 日時 平成15年11月12日  
 場所 明野町立鳥羽小学校  
 対象 県内の小中学校  
 テーマ 確かな学力を身に付ける指導の在り方  
 - 算数科における個に応じた指導の工夫改善を通して -  
 町内の学校の取り組みをまとめた「研究のあゆみ」作成  
 本校ホームページに研究内容や成果・課題を掲載  
 フロンティアだより「チャレンジ」の発行

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                              |                   |                          |
|----------------------|------------------------------|-------------------|--------------------------|
| 【新規校・継続校】            | √ 15年度からの新規校                 | 14年度からの継続校        |                          |
| 【学校規模】               | √ 6学級以下<br>13～18学級<br>25学級以上 | 7～12学級<br>19～24学級 |                          |
| 【指導体制】               | √ 少人数指導<br>一部教科担任制           | √ T・Tによる指導<br>その他 |                          |
| 【研究教科】               | 国語<br>生活<br>体育               | 社会<br>音楽<br>その他   | √ 算数<br>図画工作<br>理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | √ 有                          | 無                 |                          |